

2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 43213 単位数 : 4

科目名	日本経済論	科目責任者	山崎 勝
課題と試験担当教員	山崎 勝		
履修方法	S スクーリング学習		
ナンバリング	CECON341		

■ 科目概要

日本経済論の教科書は、2013年度まで『日本経済読本』（第18版）を使用してきましたが、2013年2月に第19版が発行されました。そのため、今後の第18版の在庫数など諸事情を考慮して第19版に統一することになりました。第19版では新しい章が3章追加されています。そのほかの章の内容は18版と重複しますが、かなりの部分を書き改められています。スクーリングの講義では、第19版の新しい章と内容が書き改められている章を優先して取り上げたいと思います。

新テキスト第19版への変更にともなって、大きな問題となることは、メディア学習用DVDは既に第18版で収録してしまったことです。この点につきましては履修生の皆様にご迷惑をおかけ致しました。第18版では「旧版を全面的に改めて一八版を出すことにした。」とあり、当初は第18版を使用する予定でした。しかし、前述の事情により急遽テキスト第19版に変更することになりました。

DVDで収録した「第2章日本の経済政策」は、第19版では内容が全面的に書き改められています。スクーリングでは、それに該当する第19版第3章を取り上げますので、補足学習としてDVDを活用してください。

■ 到達目標

「日本経済論」の学習を通して、日本経済の近年の重要問題を整理・理解すること。また現在の日常的な日本経済の諸問題を論理的・歴史的・制度的などの観点から理解できること。

■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
『日本経済読本』（第18版）「はしがき」および第1章「日本経済のあゆみ」第1, 2節 (第19版第2章第1節及び第2節5項 経済成長と産業構造) (DVD学習)	最初に、「はしがき」を補足説明。「はしがき」で書かれているポイントは3つある。第1に、戦後の昭和期の高成長時代。第2に、平成不況。第3に、サブ・プライムローン問題とリーマン・ショック。第1節は戦前の経済発展について。明治初期の制度改革から1880年代半ば～20世紀初頭の工業化、高橋財政までを説明。第2節は、戦後再建と高度経済成長について。戦後のGHQによる経済の民主化、国際社会への復帰、高度成長期の日本経済などについて説明。
同第1章第3, 4, 5節 (第19版第2章第3節、第2章第4節) (DVD学習)	第3節は、石油危機と成長率の低下について。最初に、1971年のニクソン・ショック後の円レートの切り上げと固定相場制から変動相場制への以降について説明。次に、1970年代に起きた2度の石油危機について説明。この石油危機によって日本の高成長時代は終焉し、中成長時代へと移行した。第4節は、バブル経済と失われた10年について。日本の経常収支黒字の累積によって、日本の輸出が問題視される。1985年9月にはプラザ合意がなされ、円レートは急速に上昇。そのため日本の経済政策は、内需主導型に転換。景気拡大にともなって、株価や地価が急上昇。それは異常を極め「バブル経済」の発生に至る。やがて地価や株価などが急落し、「バランスシートの悪化」を引き起こし、累積債務問題に至る。バブルは崩壊する。その後の10年はバブル崩壊の後遺症が残り、日本経済は低迷。いわゆる「失われた10年」といわれる経済状態を迎える。

学習範囲 該当する章など	学習内容
同第2章「日本の経済政策」第1節 (第19版第3章：全面的に書き換えられている) (DVD学習)	第2章第1節は、戦後体制と経済政策の特徴について。第1に、戦後の経済民主化のための諸政策とドッジ・ライン、シャウブ勅告について説明。GHQ主導による経済の民主化である。第2に、自由民主党と日本社会党の発足による1955年体制の成立を説明。この体制は1993年に細川内閣が成立するまで40年近く続いた。第3に開発志向型の経済政策、第4に経済計画と国土計画、第5に産業政策と政府規制、第6に物価政策、第7に財政投融资と公的金融、公的企業、第8に社会保障問題、第9に雇用・労働政策、第10に官僚主導の政策決定などかなり広範囲にわたる項目が取り上げられている。
同第2章第3節および第3章第1節 (第19版第4章第2節) (DVD学習)	第2章第3節は、経済政策の新しい潮流と構造改革について。第1に、1970年代の石油危機によって、その後スタグフレーションが発生。スタグフレーション下の経済において、ケインズ経済学に対する批判や新保守主義が台頭。第2に、石油危機以降に赤字国債が累積し、財政を圧迫。そのため行政改革と地方分権が問題が浮上。第2に規制緩和と消費者保護行政の進展について説明。第4に金融市場と制度改革について取り上げられる。ここでは、規制金利と金融市場の自由化などについて説明。第5に社会保障と労働市場改革。第6に経済政策決定機構の改革などについて説明。 第3章「財政の仕組みと財政政策」第1節では、財政の仕組みについて説明。第1に財政制度の概要について。具体的には、国の一般会計予算、国の特別予算、財政投融资、地方財政、一般政府の定義などが取り上げられる。第2に、予算策定の手続きについて説明。第3に税制について。具体的には、所得税、法人税、消費税について説明。
同第3章第2節 (第19版第4章第1節) (DVD学習)	第2節は財政政策の役割について。第1に財政政策の役割について説明。具体的には、資源配分の調整、所得再分配、経済の安定が取り上げられている。第2に財政政策をめぐる理論的背景。主に有効需要の創出を提唱したケインズやケインズ学派、それに対立する理論を紹介。第3に経済危機後の財政政策について説明。ここでいう経済危機とは、リーマン・ショックの影響によって発生した2008年秋以降の世界的な金融・経済危機のこと。第3節は、財政の中長期的課題について。第1に財政収支と債務残高の動向について説明。第2に財政再建に向けた取り組みについて説明。具体的には、欧米諸国における財政再建ルールと日本における財再建の取り組みについて取り上げている。第3に、社会保障と財政再建について説明。
序論 ー最近の日本経済ー	* DVD学習で学んだこと(第19版第2章第3節・第4節、第4章第2節から1節を選択)を2000字程度のレポートにして、当時間に提出してください(原稿用紙または市販のレポート用紙等を使用)。小テストは行ないません。 * 1時限目は、スクーリング開始直近の日本経済の現状、問題点、課題等を解説・講義します。
『日本経済読本』 (第19版)第1章 「課題先進国となった日本」	好景気にわく1980年代末からバブル経済の崩壊とその後10年、20年と続く長期停滞、デフレ期などを迎えた日本経済の諸問題の総論について学習します。
同第3章「日本の経済政策」	経済政策の目的と分類、統制経済からバブル経済にいたる経済政策、バブル崩壊以降の経済政策の変遷など、バブル経済前後の経済政策を学習します。
同第6章「デフレ下の金融政策」	経済における金融の役割と日本の金融システム、およびデフレ経済下の金融政策について学習します。
同第8章「雇用環境の変化と課題」	1990年代後半以降の日本における雇用環境の変化と課題、すなわち経済のグローバル化、技術進歩、少子高齢化と人口減少などの中で労働・雇用環境も大きく変化しさまざまな課題に直面しています。このような諸課題について学習します。
同第9章「国民生活の現状と格差問題」	国民生活の現状について、最初に家計の消費と貯蓄などの現状の分析、次に家計保有資産の現状と特徴、最後に所得格差と貧困の問題について学習します。
同第10章「少子高齢化時代の社会保障」	今日の日本経済の最大の問題点である少子高齢化問題と社会保障問題について学習します。具体的には、年金・医療・介護、子育て支援、さらに社会保障と税の一体改革について学習します。
同第12章「資源エネルギー戦略の再構築」	東日本大震災による福島原子力発電所の事故以来問題となっている資源エネルギー戦略について学習します。具体的には、原発事故までのエネルギー政策、原発事故と節電、再生可能エネルギー等について学習します。
スクーリング試験準備および質問	スクーリング試験準備、その他質問等
同第3章第1節1から3	第3章第1節「経済政策の目的と分類」の1. 経済政策の目的、2. 「市場の失敗」と「政府の失敗」、3. 「マクロ経済政策」対「構造政策」
同第3章第1節4-6	第3章第1節の4. 財政政策と金融政策、5. 財政政策と金融政策の有効性、6. 横断的構造政策と分野別構造政策

学習範囲 該当する章など	学習内容
同第3章第2節「統制経済からバブル経済にいたる経済政策」 1-3	第3章第2節の1. 混乱期の傾斜生産方式、2. キャッチアップ期の開発志向型の経済政策、3. 自民党一党支配
同第3章第2節第3章第2節 4, 5	第3章第2節の4. 円高不況への対応での金融政策の偏向、5. 後回しとなった構造政策
同第3章第3節「バブル崩壊以降の経済政策の変遷」	第3章第3節の1. バブル崩壊後の経済政策
同第3章第3節 2-4	第3章第3節の2. リーマンショック後の先進国のマクロ経済政策の変化、3. 日銀への緩和圧力
同第3章第4節「国際経済政策の重要性が増大」 1-3	第3章第4節の1. 外国為替平衡操作（為替介入）、2. 通商政策、とくにFTA政策、3. 人の移動
同第3章第5節「政策決定への新たな試み」 1、2	第3章第5節の1. 2001年の省庁再編、2. 衆議院と参議院の「ねじれ現象」
同第9章第1節「家計の消費、貯蓄等の現状」	第9章第1節の1. 消費、貯蓄等の現状。教科書をよく読み、図9-1を詳細に分析してください。また更に資料を集め補足説明を加えてください。
同第9章第1節	第9章第1節の2. 家計貯蓄率の低下とその要因。他の資料を参考に、家計の貯蓄率の低下とその要因について考察してください。
同第9章第1節	第9章第1節の3. 消費生活の変化。他の資料を参考に、消費生活の変化について考察してください。
同第9章第2節「家計の保有資産の現状」	第9章第2節の1. 家計の保有資産の現状。教科書を読み、さらに図9-3と図9-4を分析し、考察してください。
同第9章第2節	第9章第2節の2. 年齢差の大きい家計資産保有。教科書をよく読み、図9-5を分析し、考察してください。
同第9章第3節「所得格差と貧困」 1, 2	第9章第3節の1. 所得格差は拡大しているのか。2. 貧困問題と子どもの貧困
同第9章第3節 3-5	第9章第3節の3. 再分配政策の評価、4. 人口減少社会における再分配政策の方向性、5. ニート、フリーターとワーキング・プア

■ ディスカッション・ペアワーク

ディスカッション・ペアワークは行いません。

■ DVDに関する内容理解の確認方法

面接授業1回目にレポートの提出があります。

■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	<p>出題問題を正確に理解しているか。また、設問に沿った論理の構成と展開が行われているか。正しい文章で丁寧な説明あるいは論述がなされているか。解答が途中で終わらずに、完結しているか。以上の点を基準に評価します。</p> <p>また、試験点数は、DVDレポート評価を含めます。スクーリング試験85%、DVDレポート15%（ただし、第6時限目提出者以外は10%）の配分で評価します。</p>

種別	評価基準
レポート	各課題の意図を正確に理解していること、教科書を十分に学習していること、レポート全体の論理構成などについて評価します。ただし、教科書の抜き書きや写しは、レポートとして評価しません。

■ 評価方法

- スクーリング試験：70%
- レポート：30%

■ 教科書

書名：日本経済読本第19版
著者名：金森・大守編
出版社名：東洋経済新報社
出版年：
版：
刷：
ISBN：

■ 参考書

特に指定しない。

■ 履修上のアドバイス

日本経済論の対象とするテーマは、幅広く多岐にわたっています。教科書では、幅広いテーマを概括的にまとめています。教科書を十分に理解するには、まず熟読することが欠かせません。スクーリング授業は教科書に沿って基本事項を必要に応じて補足説明を加えながら行います。スクーリングに参加するにあたっては、テキストの該当の章・節の予習が望まれます。論点を整理してノートにまとめることなどが有効です。

日本経済論の教科書は、従来より『日本経済読本』各版を使用してきましたが、同書の第19版に統一しますので、ご注意ください。

■ 自習時間

レポート課題は1課題につき、15時間程度かけて作成してください。科目試験の準備は20時間の学習を目標にしてください。

■ 担当者のプロフィール

1986年 創価大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
 1986年 タイ王国タマサート大学大学院留学
 1990年 創価大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学（経済学修士）
 1990年 創価大学アジア研究所助手
 1999年 創価大学アジア研究所助教授
 2006年 創価大学通信教育部、現在に至る